

2021年5月4日

大阪大学総長候補者各位

大阪大学総長候補者各位への公開質問書

箕面地区教職員組合

大阪大学総長候補者各位におかれましては、大阪大学のためにご尽力される決意であることに心より感謝申し上げます。

候補者各位のご所見はマイハンドアイで拝読しておりますが、箕面地区教職員組合は、この度、独自の質問をさせていただきたく存じます。

第一に、これは箕面キャンパスに限定されるものではありませんが、教職員の業務量は年々多くなり、特に昨年度には、労働基準監督署の指示による調査によって、三六協定違反が明らかとなりました。長時間労働は大学の至る所で生じており、一方で正規職員が減らされ続け、非正規職員の5年雇い止めも依然として変わりません。私たちは、これを組織の構造的な問題であり、総長の強力なイニシアティブなくして解決できない問題と捉えています。大学からは今年度、各部署の実態調査を行う計画であるとの回答を得ていますが、労働時間削減に向けて具体的に何を実行するのでしょうか。また、全体として、これからの教職員の働き方をどのようにイメージしているのかについてもお聞かせください。

第二に、箕面キャンパスは旧大阪外国語大学を引き継ぐもので、私たちの役割は、2007年の統合後もその伝統を活かしつつ、総合大学で求められる新たな役割を果たすことだと考えています。現在、言語文化研究科と文学研究科の統合が予定されていますが、外国語学部、言語文化研究科（言語社会専攻および日本語・日本文化専攻）、日本語日本文化教育センターがもつ知的資源を大阪大学の中で今後どのように活用し発展させていくのか、展望をお聞かせ下さい。

お忙しい中、大変恐縮ではありますが、私たちの趣旨をご理解いただき、5月13日までに以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。なお、ご回答いただきました文書は、箕面地区教職員組合のメーリングリスト及びHPにて公開させていただきますので、御了承のほどよろしくお願い致します。

ご回答は、箕面地区教職員組合（union-oum@union-oufs.jp）までお寄せください。

質問1 大阪大学における教職員の業務負担増について

大阪大学における教職員の業務負担についてどのようにお考えでしょうか。昨年度はコロナ禍で多くの臨時の業務が発生しましたが、ここでは、それだけでなく、労働時間削減等にむけて、総長の任期中にどのように取り組む予定かをお聞かせください。また、非常勤職員の5年雇い止めについて、何かご意見がありましたら、お聞かせください。

質問2 外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターの位置づけ

大阪大学において外国語学部、言語文化研究科、日本語日本文化教育センターを今後どのように位置づけていくのか、お考えがありましたらお聞かせください。

(以上)